

冊	子	目	録
	落	穂	拾
			い

『国立国会図書館所蔵』

全集月報・付録類目録』

1996年12月刊 B5 182頁 5,900円
(発売 紀伊國屋書店)

〔カバー、帯、箱、スリップ、読者カード、新刊案内、内容見本、月報……〕本は、書店に並ぶ時の粧いをひとつづつはずし、素颜となる頃、晴れて国立国会図書館の資料として書架に収まる。

さて、この中で敗者復活をとげたのが月報ということになる。ペラ物から冊子体まであり、中には掲載論文が他の書誌類に取り上げられたりするものもある。実際、月報付きの全集物は古書価もあがる。月報だけまとめて売ることもある。これら月報を合冊製本し、新たに受入・整理を行って上記の目録を編集した。

端本が多いが、昭和初年刊行の全集の月報もある。日本近代文学館でも月報の収集を行っているが、当館では文学全集に限らず、政治や物理学や電気工学や農業のシリーズ物の月報もある。収録総数は2,523タイトル。

内容細目を表記するか、論文著者の索引があれば、個人文学全集作成の際など、作家の小文を収拾するのに有効であろうが、いかんせんこの作業は膨大な時間を要するので断念した。いくぶんかの付加価値をつけようと、書名索引で留意したのは、ひとつの資料に対して、複数の書名から検索できるようにしたことであ

る。全集等本体の書名に月報（付録、しおり）等をつけた正書名の他、月報自体にタイトルをもつものは別書名として、更に冠称（定本、講座、最新、カラー版等）をはずした書名も収録し、正書名はゴシックで、他は項頭に*をつけて明朝体で表記した。同名あるいは類似の全集の有無を簡便に探す際に使えるかもしれない。例えば『世界文学全集』は出版社や刊年の異なる16種類が並んでいる。

収集に40年、新規整理に3年、目録編集に4カ月がたち、校正も終わりに近づいた頃、さて裏表紙の英文標題をどうしようか、ということになった。appendixもsupplementもしっくりこない。月報を直訳してmonthly reportやbulletinではどうしようもない。とうとう国際協力課のシモンズさんの協力をあおぐことになったのだが、「月報類」をなかなか理解していただけない。実物を見せて同課員に説明してもらったところ、なんと外国にはこれら「月報」に類するものはない、とのこと。やっとのことで訳してもらい、“Catalog of Explanatory Inserts for Serial Publications”とあいなった。直訳すれば「シリーズ物の説明的別刷の目録」。これだけでは不充分だろうとZensyu Geppo～と日本語書名をローマナイズしたものを併記することで一件落着した。

月報は日本の出版文化の一側面を体現している、といえは担当者の自画自賛、我田引水、手前味噌ではあるけれども、目録編纂に至るまで多くの図書館員の手から手へ引き継がれてきた月報が、新たに図書館資料として位置付けられ、利用の便が図られるようになったことを素直に喜びたい。（参考課 石渡裕子）